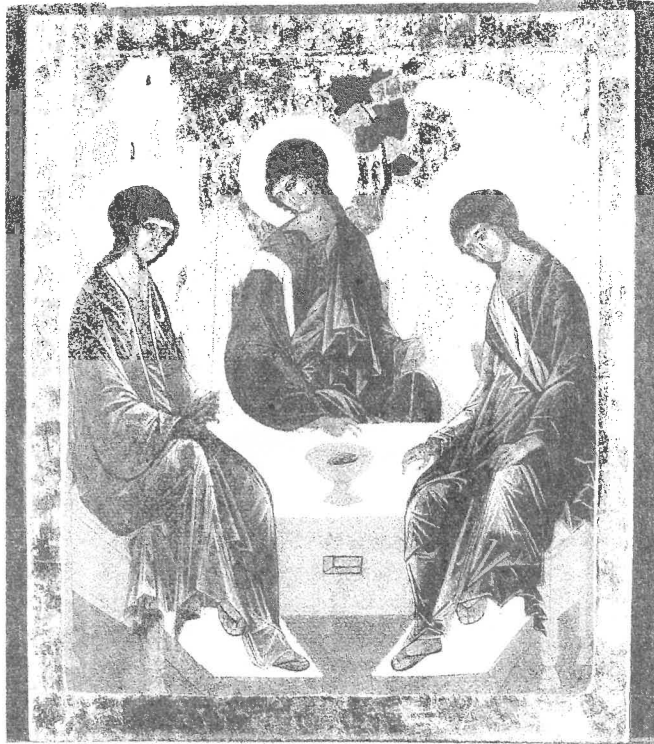


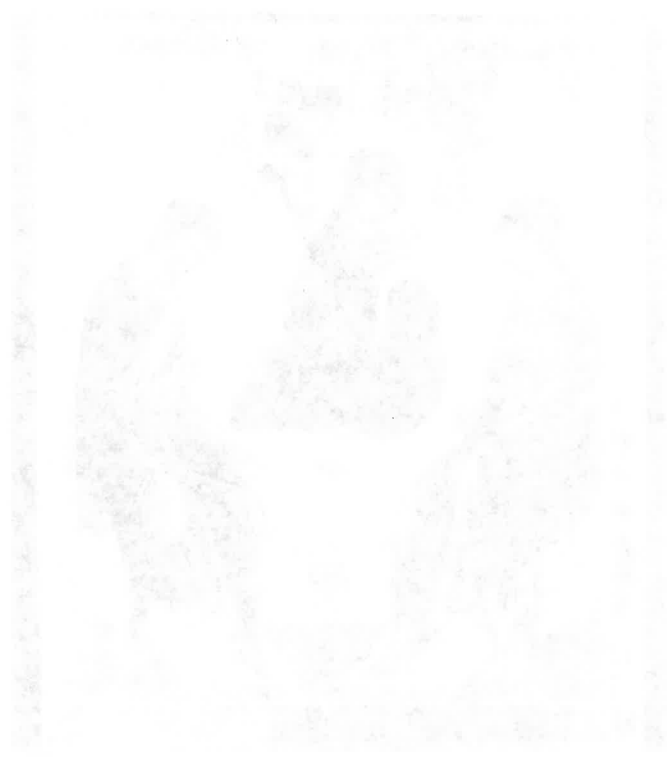
2000. 3 霊性センターニュース 142号



キリストの共同体（1）
霊性センターカルメル
断想（146）
ヘンリーナーウエン「旅路の糧」（20）
みことばのひびき
詩
大聖年にあたって（2）
フォコラーレニュースより
諸所の企画についてのご紹介
短歌
お願い

〒611 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
宇治聖テレジア修道院（黙想）
TEL 0774-32-7016
FAX 0774-32-7457

2009
X-112-821
5241



2009
X-112-821
5241

『キリストの共同体』

チプリアノ・ボンタッキョ

二回にわたって「人間の共同体」を取りあげて、「共同体作りの条件」について話してきました。人間は成長する為に、共同体を必要としています。反面、共同体を破壊し得るものを自分の心に持っています。従って、一人一人がこの事実を意識して、そういう自分に絶えず警戒しなければならないということです。やはり、共同体作りはそのメンバーの一人一人の改心から始まるものです。

さて、今回はキリスト者の共同体の特長についてお話したいと思いますが、その土台となる「人間の共同体作り」に励まなければ、「キリスト者の共同体」が作れないということは改めて指摘するまでもないことでしょう。

キリスト者として成長する為にキリスト者の共同体が必要となります。「神は人々を個別的に…救うのではなく、…彼等を一つの民として確立することを望んだ」（教会憲章9）。

尚これから、「使徒行録」（2・42~47, 4・32~35）や「パウロの手紙」（1コリント12章, ガラティ75・1, 5・13~14）に基づいてキリスト者の共同体の特長を簡潔に取り上げましょう。

1) 「信者達は使徒達の教えを聞く事に熱心であった」（2・42）。

信仰のうちに聖旨を求める姿であり、キリストを中心に、天の御父のもとに、一つの家族として呼び集められている事を意識している共同体の姿がみられます。

2) 「信者達は相互の交わり（コイノニア）に熱心であった」（2・42）。

「信者達は心も思いも一つにし、一人として持物を自分の物だと言う者はなく、総てを共有していた」（4・32, 2・44）。

「信者の中には一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人がみな、それを売っては代金を持ちより、使徒達の足元に置き、その金は、必要に応じて各々に分配されたからである」（4・34~35）。

総てを共有にする程の素晴らしい「コイノニア」が見られる共同体の姿です。

3) 「信者達はパンを裂く事に熱心であった」（2・42）。

「家毎に集まって、パンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していた」（4・46~47）。

イエス様が私達の命の為に、自分を食べ物としてお与えになったように、キリスト者も惜しみなく相互に与え合う事を学ぶ共同体の姿です。

4) 「信者達は祈る事に熱心であった」（2・42）。

「毎日ひたすら心を一つにして、神殿に参り…」（2・46）。

心を一つにして共に祈る事は、キリスト者の共同体に欠かせない一つの条件です。

5) 「信者達は民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え、一つにされたのである」(2・47)。

共同体の深い信仰、相互の交わり、心を一つにして祈る共同体の姿は素晴らしい福音宣教となっていたのです。

6) 「一人一人に霊の賜物が与えられたのは、全体の益になる為です」(1コリント12・7)。

皆それぞれ異なった聖霊の賜物を授かっています。それぞれ与えられた賜物によって共同体に対してすべき奉仕が示されています。また、それぞれ異なった賜物が与えられるという事は、お互いに必要となっている事を示すものです。

7) 「貴方は自由を得る為に召し出されたもので…愛によって互いに仕えなさい」(ガラテヤ5・13, 5・1)。

キリスト者の共同体が与えられた掟は唯一つです。それは、「隣人を自分のように愛しなさい」という事です。相互の愛に成長する事によって、他の掟から「自由」になっていくキリスト者の共同体の理想的な姿です。

2000. 1. 16.

(在俗者集会講話)



靈性センターカルメル

1. 聖書深読黙想会

(1) 上野毛聖テレジア修道院（黙想）（2000年黙想会年間スケジュールのページをごらんください）。

(2) 宇治聖テレジア修道院（黙想）（2000年黙想会年間スケジュールのページをごらんください）。

(3) 名古屋（比野教会）

日時：5/27（土）～5/28（日）

連絡：小林 厚 〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115

(4) 大分聖テレジア修道院（黙想）×（10/31・深読は訂正となりました）

連絡：富田恵子 〒870-1125 大分市上宗方1803-3 TEL. 0975-41-4012

(5) 通信聖書深読

朝日カルチャーセンター（東京新宿）が通信講座のなかに『聖書深読』を組み入れてくださることになりました。ご希望の方は下記にご連絡ください。

連絡：戸張由美子 〒163-0201東京都新宿区住友ビル 私書箱22

「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎）。オリエンス宗教研究所出版。

定価 1000円。下記に直接ご注文下さい。尚、3冊以上 注文されれば、20%引きになります。

オリエンス宗教研究所

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5 TEJ. 03-3322-7601

FAX. 03-3325-5322

2. 聖書と念祷の集い

指導 星野神父（毎月1回）

・日時：3/4・3/25・4/1・4/15（土）3：30～

・場所：上野毛教会・信徒会館 26号室

・テキスト：神との親しさ（2）『祈りと対神徳』伊達カルメル会訳、聖母文庫 500円。上野毛教会売店にあります。

・急に変更になることもありますので数回ご出席になってみてその後、継続しようと思いいなる方は連絡網に入っただければと思います。

連絡網に入っいらっしゃらない方は、土曜日の午前9時30分から11時30分の間に修道院の受付に 電話 をして変更がないのをたしかめてからお出かけください。 TEL. 03-3704-2171 カルメル会修道院受付 久岡

・その他、夏休み、冬休み、春休み などのお知らせはこの靈性センターニ

ューズに掲載いたします。

- ・なお、この集いは前半約40分の講話と後半約45分の沈黙の祈りで構成されます。

また、この集い終了後、5時30分から6時まで、全世界の人々の為に祈る神の民の祈り「教会の祈り」、

- ・私たち一人一人を母の愛をもって見守る聖母マリアへの祈り、「サルヴェレジーナ」
- ・主の受肉と十字架を通しての復活を賛える「お告げの祈り」、そして
- ・希望者には主御自身の御体をいただく聖体拝領が続きます。これらにもご自由にご参加ください。

そして大都會の中のオアシスをこの修道院で探り当てましょう。

2000年度 東京カルメル在俗者会 黙想会

場 所 カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

日 程

ご指導

- ・ 6月15日（木）夕食 ～ 6月18日（日）昼食 チプリアノ神父様
- ・ 8月24日（木）夕食 ～ 8月27日（日）昼食 アロイジオ神父様
- ・ 9月14日（木）夕食 ～ 9月17日（日）昼食 星野 正道神父様
- ・ 10月 2日（月）夕食 ～ 10月 5日（木）昼食 チプリアノ神父様
- ・ 11月16日（木）夕食 ～ 11月19日（日）昼食 福田 正範神父様

☆空きがある場合には、一般の方も参加できます。おたずねください。

☆お申込み、お問合わせは下記まで

TEL & FAX 045-562-2296（永瀬）

2000年 カルメル修道会東京・上野毛聖テレジア修道院（黙想）

黙想会年間スケジュール

1. 信徒と奉献生活者のための個人指導黙想会

スタッフ 星野正道師、福田正範師（以上カルメル会）

Sr. 中川享子（ケベックカリタス会）、他

(1) 6月 1日（木）4時から10日（土）朝食

(2) 10月20日（金）4時から29日（日）朝食

全期間参加の方優先ですが二泊からの部分参加も可能。

詳しくは申込用紙を御請求ください。

2. 奉献生活者のための黙想会

(1) 7月24日（月）4時から8月2日（水）朝食 福田正範師

(2) 8月11日（金）4時から20日（日）朝食 山田裕於師

(3) 12月26日（火）4時から翌年1月4日（木）朝食 福田正範師

3. 聖書深読黙想会：次の各土曜の夕食から日曜の16時30分まで

(1) 4月15日から16日 奥村一郎師

(2) 7月 1日から 2日 //

(3) 9月30日から10月1日 //

(4) ~~11月26日から28日~~ // 変更 9月2日から3日

(5) 12月16日から17日 星野正道師

2001年

(6) 1月27日から28日 奥村一郎師

(7) 3月31日から 4月1日 星野正道師

4. ウェンズデイ・リトリート スタッフ：星野正道師

「キリスト教再確認」（音楽瞑想、講話、分かち合い、ミサ、etc.）

(1) 5月17日（水）10時から16時

(2) 6月14日（水） //

(3) 7月 5日（水） //

(4) 10月11日（水） //

(5) 11月 1日（水） //

5. ウィークエンド・リトリート 新井延和師 (カルメル会)

(最初の日の夕食をすませてから集合。どなたでも参加できます。)

- (1) 4月28日(金) 20時から30日(日) 15時 「復活」
(2) 10月13日(金) " 15日(日) " 「アビラの聖テレジア」

6. 特別企画黙想会：いずれも通い可

- (1) 5月 9日(火) 夕食から11日(木) 昼食 アロジオ師
(2) 12月1日(金) 夕食から 3日(日) 昼食 チプリアノ師
(3) 2001年1月16日(火) 夕食から18日(木) 昼食 奥村一郎師

7. 大祭日のミサにあずかるために：チェックイン 午後3時から

(講話なし) チェックアウト午前10時まで

- (1) 復活祭 4月22日(土) 夕食なし～23日(日) 朝食
(2) クリスマス 12月24日(日) 夕食なし～25日(月) 朝食

以上、1. から7. までの申込はカルメル会上野毛聖テレジア修道院へ。

皆さんが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想)

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355 お急ぎの場合 03-3704-2171

FAX. 03-3704-1764

8. 青年黙想会 (35歳までの男女)

スタッフ：カルメル会士

- (1) 5月13日(土) 16時から14日(日) 16時
希望者には5月12日(金) 20時から始まるプログラムもあります。
その場合は最初の日の夕食をすませてから集合してください。

- (2) 11月 3日(祭・金) 12時、昼食から 5日(日) 16時

青年黙想会のお問い合わせ、申込はハガキかFAXで下記まで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25カルメル会

青年黙想会担当神学生 FAX. 03-3704-1764

カルメル会四旬節講話シリーズ

主催：男子カルメル修道会

大聖年紀元2000年を迎えて

『生ける神三位一体』

場所：カトリック上野毛教会聖堂 東急大井町線上野毛駅下車徒歩5分
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会修道院

日時：下記の各日曜日午後2時講話開始、続いて主日ミサ

- 3月12日 森一弘（東京教区補佐司教）
「教会の源泉と展望－教会の歴史における大聖年の意義」
- 3月19日 カルメロ・ストッキ（カルメル会司祭）
「愛に生きる神に生かされる存在」
- 3月26日 ペトロ・アロイジオ（カルメル会司祭）
「三位一体への祈り」
- 4月2日 中川博道（カルメル会司祭）
「三位一体と日常生活」
- 4月9日 小林久美子（フォコラーレ女子本部）
「私たちと共におられる神－対話・相互愛・一致」

T. T. クラフ

～10代・20代の
青年たちの集い～

- 第41回 6月10日(土) 「こんびゅーたー」
 第42回 6月24日(土) 「洗者ヨハネから学ぶ」
 第43回 7月1日(土) 「パンクエツト」
 第44回 9月9日(土) 「歌謡曲で折る パートII」

カルメル会で10代・20代の青年たちの集い『T. T. クラフ』を行っています。このクラフの特徴は、福音や、現代の話題を使って、折り、お互いの話を聞く、自分の意見を話す、また伝わってくるものを感じ取る、自分の感性を表現するといったことを中心に置きます。その中で、お互いの神様から頂いた“宝”を発見し、よりよく人々と共に生きていく可能性をさがしていければと願っております。
 ぜひ、参加してみてください。わたしどもスタッフは心からお待ちしております。

- 第36回 3月25日(土) 「歌謡曲で折る パートI」
 第37回 4月1日(土) 「新聞で折る」
 第38回 4月15日(土) 「主の折り」
 第39回 5月6日(土) 「政治」
 第40回 5月27日(土) 「安息日—たしきからの解放—」

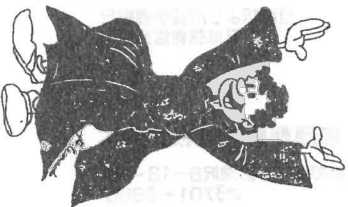
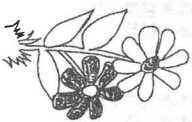
- *時間 いずれもP.M.7:00からP.M.9:00まで
 *対象 10代・20代の青年たち
 *スタッフ カルメル会士
 *場所 カトリック上野毛教会 信徒会館 1F
 *プログラム

- 7:00-7:15 はじめの集い みんなで讃美歌を歌うetc.
 7:15-7:30 テーマの解説
 7:30-8:00 折りの時間 (沈黙の折り) 聖堂や会館で折ったこと分かち合い
 8:00-
 ○ カトリック教会のカテキズム
 ○ とともに折る時
 9:00 解散

カルメル修道会

T. T. クラフ 係

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25
 TEL 03 (3704) 2171



修道生活、司祭生活を考える若者の集い

NO. 15

この修道生活、司祭生活を考える若者の集いも皆さんのご協力で小さなあゆみをつづけております。この集いは特定の修道会へのおさそいの集まりではありません。教会生活を送って行く中で今までとはちがう生き方もあるのではないか、とと思っている若者がひとりぼっちでひざをかかえているのはよくない、同じように感じている仲間と出会い、ともに祈りながらあゆんで行けたら何かが見えてくるのではないか、ということで始まりました。もし君がそんなひとりだったらぜひ来て見ませんか。

*日時 3月20日(月・祝日) 10:00 ~ 16:00、昼食は各自お持ちください。

*対象 30才くらいまでの独身男女青年

*スタッフ カルメル会司祭 星野正道

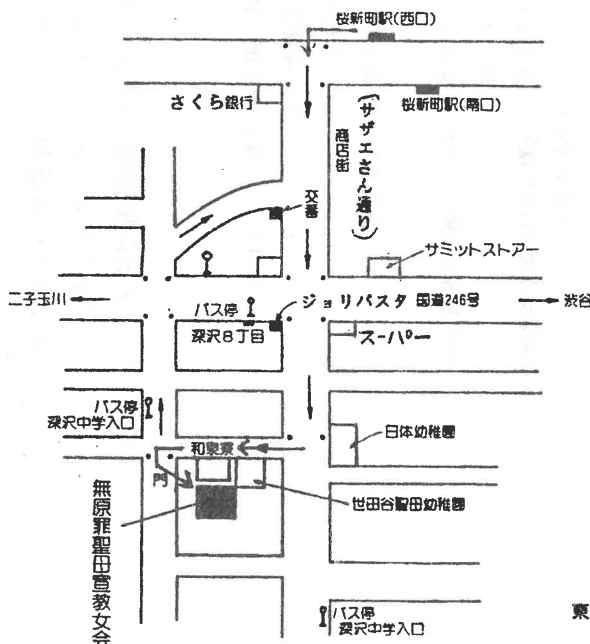
*費用 1000円

*内容 ミサ、講話、質問コーナー、個人面談等

*持って来るもの 聖書、ロザリオ、筆記用具、昼食等

*連絡先 158 世田谷区上野毛2の14の25 男子カルメル修道会
星野正道神父 TEL03-3704-2171 申し込みの必要はありません。

*会場 無原罪聖母宣教女会修道院 158 世田谷区深沢8の13の16
東急新玉川線桜新町下車 TEL03-3701-3295



(地下鉄) 桜新町下車
徒歩12分
渋谷より新玉川線
二子玉川園方面

(バス) 深沢8丁目下車
徒歩2分
渋谷駅南口
35番のりば
(新道経由) 二子玉川園行
高津営業所行
砧本村行

(バス) 深沢中学入口下車
徒歩1分
目黒駅より成城学園駅行
又は弦巻営業所行

無原罪聖母宣教女会
東京都世田谷区深沢8-13-16
☎3701-3295

2000年 大聖年 黙想会 案内

CARMEL

聖書深読黙想会

1月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後	奥村一郎神父担当 了
2月 5日(土)6:00PM ~ 6日(日)午後	中川博道神父担当 了
4月15日(土)6:00PM ~ 16日(日)午後	中川博道神父担当
5月27日(土)6:00PM ~ 28日(日)午後	新井延和神父担当
7月 8日(土)6:00PM ~ 9日(日)午後	奥村一郎神父担当
12月16日(土)6:00PM ~ 17日(日)午後	新井延和神父担当

男子青年のための黙想(高校生以上~35歳まで)

6月 3日(土)5:00PM ~ 4日(日)4:00PM	カルメル会士担当
11月25日(土)5:00PM ~ 26日(日)4:00PM	

女子青年のための黙想(高校生以上~35歳まで) 中川博道神父・カルメル宣教修道女会

2月20日(日) 一日黙想 10:00AM~4:00PM 了
5月20日(土)5:00PM ~ 21日(日)4:00PM
11月18日(土)5:00PM ~ 19日(日)4:00PM

一般のための黙想

- ・週末黙想

1月29日(土)5:00PM ~ 30日(日)4:00PM	中川博道神父 了
5月13日(土)5:00PM ~ 14日(日)4:00PM	奥村一郎神父 (但し男性のみ)
6月17日(土)5:00PM ~ 18日(日)4:00PM	北村善朗神父
- ・日曜一日黙想 10:00AM~4:00PM

4月9日 (テーマ) 『復活』	中川博道神父
11月5日 (テーマ) 『日常生活の中の三位一体』	
- ・幼いイエスの聖テレジア黙想

(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』	テレーズと共に「愛に生きる」	伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
9月30日(土)4:00PM ~ 10月1日(日)3:00PM		
- ・2泊3日の黙想

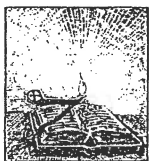
(テーマ)『大聖年の恵みを生きる』	テレーズと共に(慈悲の愛に身をささげた記念日に)	伊従信子氏(ノートルダム・ド・ヴィ)
6月9日(金)4:00PM~11日(日)4:00PM		
- ・グレゴリオ聖歌黙想会

12月1日(金)4:00PM~12月3日(日)4:00PM	花井哲郎氏・中川博道神父 (合唱経験者対象)
-------------------------------	---------------------------
- ・木曜 黙想会 10:00AM ~ 4:00PM

1月20日	一年の霊的歩みのプログラム	中川博道神父 了
2月17日	四旬節	中川博道神父 了
3月16日	聖ヨゼフの月	新井延和神父
4月20日	復活	中川博道神父
5月18日	聖母マリア	未定
6月15日	イエスの聖心	未定
7月13日	カルメル山の聖母マリア	新井延和神父
10月26日	祈り :アビラの聖テレサをとおして	中川博道神父
11月16日	待降節・死	新井延和神父
12月12日(火曜日) クリスマス		北村善朗神父

奉獻生活者の黙想

7月24日(月)5:00PM ~ 8月2日(水)朝食	中川博道神父
8月23日(水)5:00PM ~ 9月1日(金)朝食	アロイジオ神父
12月27日(水)5:00PM ~ 1月5日(金)朝食	チブリアーノ神父



宇治カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

〒611-0002 宇治市木幡御蔵山39-12
Tel 0774-32-7016 / Fax 32-7457

最寄の駅:JR奈良線 木幡駅 or 六地藏駅 / 京阪宇治線 木幡駅 or 六地藏駅

断想 (146)

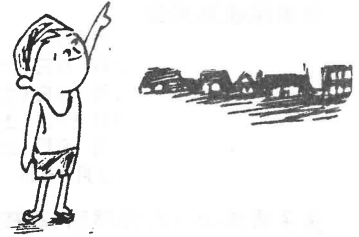
2000年3月

宇宙の子守歌 (5)

チビっ子広場 (4)

おほしさんが
ひとつでた
おとうちゃんが
かえってくるで

こゝろし
口頭詩



クリスマスにも近い頃、児童教育学科の短大生がこんな言葉を表紙に書いてつくった絵本が廊下沿いの机のうえにおいてあった。「どうぞご自由におとりください」とあったので、もらってきた一冊は今もここにある。

口頭詩と言え、子供の口からでたことばをそのまま書きとめたもの。たぶん、宵の明星を見たのだろう。薄暗くなった夕暮れの西空に光り輝く美しい金星を見た小さい坊やの心に映ったものは、家路を急ぐパパの姿。「帰ってくるで」、この言葉がひどくわたしの心に響いた。とくに、最後の助詞「で」の一字。方言かもしれないが、力強い。「ぞ」じゃ、脅しのように品がない。「よ」、「わよ」では、弱すぎる。パパは帰ってこないかもしれない。言葉にこだわる勝手な大人の印象で、申しわけないが、「かえってくるで」と言われて、「うん!!」とうなづいてしまう。正直なところ、一瞬、息がつまるほどの感動。随分前のことだが忘れられない。

幼子のみずみずしい体には、大自然の血がそのまま通っているのだろうか。大宇宙(マクロコスモス—Macrocosmos)と、小宇宙(ミクロコスモス—Microcosmos)とが、そこでは一体になっているのだろう。天地創造の太古にもさかのぼるような幼子の世界をいつもうらやましく思う。

イエスは聖霊によって喜びに溢れ、こう言われた、

「天地の主である父よ、ほめたたえます。あなたは、これらのことを知恵のある人や賢い人には隠し、幼子のような者に現わしてくださいました。そうです。父よ、これは、あなたのみ心でした。」(ルカ 10、21 マタイ 11、25-26)

二千年の昔、幼いイエスのもとに学者を導いた東方の星。神のはからいは今も、いつも変わらないのだろう。

「嬰兒復帰」とは、さらに歴史を遡る中国の古聖老子の教えである。(第28章)

年間第9主日

申命記5：12～15、Ⅱコリ4：9～11、マルコ2：23～3：6

『神は儀礼的ないけにえよりも愛の律法しか

知らない親切をはるかに望んでおられる』

ユダヤ人は律法のことを気遣うあまり、律法が人間のために作られたと
言うことを忘れてしまいました。律法は良いものですが、ユダヤ人たちは
律法の奴隷となっていました。

イエスの時代のユダヤ人のように私たちも宗教的実践、利害、物に重点
を置き過ぎ、愛という大きな命令を忘れてしまう危険があります。これか
らその実例をお話します。

タナレオン氏は大土地所有者でした。所有地は雇っているたくさんの労
働者を監督して回るのに車が必要なほどの広さでした。

タナレオン氏と家族全員、信仰の規則を守ることはとても宗教的でした。
日曜のミサには必ず出席し、水曜毎に絶えざる助けの聖母にノヴェナ
をし、家には美しい御像もありました。しかしユダヤ人と同じく、まず第
一にすべきこと、すなわち困っている人々に対する愛を無視していました。

彼らは労働者に正当な賃金を払っていませんでした。さらに悪いのは、
払っていない額の受け取りのサインを書かせていたのです。労働者がサイン
を断ると追い出されました。そこで仕方なく家族のために不正を我慢し
て従っていました。「少しでも貰えるだけましだ」と労働者たち言うので
した。

ここからタナレオン氏と家族にとって最も重要なことは、貧しい人たちを
犠牲にしても自分たちの利害と富を守ることだとわかります。

今日の福音は私たちが何を第一にしているかまじめに考え直すように招
いています。私たちは神と困っている兄弟よりも自分の利害を優先させて
いないでしょうか。

主日のミサも大切ですが、困っている人々のほうがずっと重要です。神
を礼拝するもっとも良い方法は困っている人に善をすることです。

イエスのように、困っている人々にどんな日でも、時、場所でも、助け
の手を差し伸べることができるようになっていくべきです。

(カルメル宣教修道女会 Sr. Teresita)

四旬節第1主日

「神の国は近づいた」

(マルコ1:12~15)

神の国は神の支配とも訳せます。神は私たちの生活の隅々まで支配しておられます。私たちの髪の毛の数さえ神は知っておられ、一羽の雀も神の許しがなければ地に落ちることはないのです。でも私たちは神の支配が身近にあることを知らず、自分の思いや考えにしたがって生きているのではないのでしょうか。マーリン・キャロザース著「獄中からの讃美」（生ける水の川）にすばらしいエピソードがあります。

ヴェトナム戦争中のアメリカでの話です。弁護士のロンが徴兵され、一兵卒として入隊しました。妻のスーは赤ん坊の頃養女に出されたのですが、養家と仲違いをしてしまい、夫だけが頼りと言うかわいそうな女性です。スーはロンが軍隊に入ってしまった、自殺未遂をしました。なんとか立ち直ったものの今度はロンがヴェトナム行きの命令を受けたのです。スーはもしロンがヴェトナムに行けば自殺すると言います。困り果てた彼はチャプレンのマーリン・キャロザースに相談しました。

チャプレンはスーを呼び、「どんなことにも神に感謝しなさい。これこそ神が望んでおられることです。」（Iテサロニケ5:18）と言うパウロの言葉を引いて説得しますが、全然受けつけません。ロンも同じでした。まったくチャプレンの言うことが理解できません。しかし、辛抱強く「神を信じるものにはすべてが益となるように働く」（ローマ8:28）と語っていくうちに、二人は今の事態を感謝してみようと思うに至りました。するとまもなく偶然に、スーの実の弟がロンのいる基地で見つかりました。彼女は天涯孤独ではなかったのです。またロンもばったりとロースクールの旧友で法律部門の将校をしている人に出会い、その友人は彼を説得して、法律部門への転属願いを出させました。その結果ロンはヴェトナム行きを免れたのです。

出来すぎた話だとお感じになるかも知れません。しかし実は私たちの人生においてこういうことが意外に多いのではないかと思います。神は私たちの人生を御旨のままに動かしたいとお考えです。しかし私たちがじたばたし、勝手に動くので神は何も出来ないのです。神の主権を認め、静かに穏やかに神にすべてのことを感謝するなら、神の支配が近づいていることに気づくでしょう。

(新井)

四旬節第2主日

創世記 22 : 1 ~ 2、9 a ~ 13、15 ~ 18 ローマ 8 : 31 b ~ 34
マルコ 9 : 2 ~ 10

「これは私の愛する子。彼に聞け」

信仰と愛を保つことは、特に試練と疑いの中では容易ではありません。今日の典礼はこのような状況に対処する助けとなるでしょう。

第一朗読はアブラハムの信仰と信頼を主がどのように試されたかを非常に感動的に語ります。

アブラハムは神の声を聞き、闇と苦しみの中で神に従います。彼は愛する息子のイサクをほふれという命令に従いました。主は彼の信仰を喜び、息子を彼に返し、新しい約束と祝福を与えます。

私たちは主が望まれるものをなんでも主にお渡しする覚悟ができていますでしょうか。神の御計画の方法や理由がわからないときもそうできるでしょうか。アブラハムのように神を信頼するなら、神は私たちをお見捨てにならず、予想を超えて私たちを祝福してくださいます。

今日の福音は主の声を聞くように招きます。主は私たちに様々な方法で、様々な状況において語ることができます。「タボル」のときは、すべてのものが明るく見え、愛すること許すこと善を行なうことがたやすくできます。一方精神的「苦悩」と試練のときは、すべてが暗く憂うつで困難に見えます。どちらにおいても主が語りたいことを見いだすために祈る必要があります。

御変容の出来事は、人生の歩み、また神・家族・個人的呼びかけに忠実であろうとする闘いにおいて私たちは決して孤独でないと望み、信じるように招きます。それは友の声であり、現存です。神御自身が私たちと並んで歩いてくれるのです。必要なのは信じることだけです。

四旬節はイエスに注意を集中する時です。もし彼を信頼し、私たちの中で働いてもらうなら、四旬節から御復活までを歩むとき私たちを変えてくださいます。

恐れないようにしましょう。「神がともにいてくださるなら、誰が私たちに敵対できよう。」

(カルメル宣教修道女会 Sr. Teresita)

四旬節第3主日

十字架の愚かさ

(Iコリント1:22~25)

パウロは「ユダヤ人はしるしを求め、ギリシア人は知恵を探しますが、私たちは十字架につけられたキリストを宣べ伝えます。それは異邦人には愚かなものですが、召されたものには神の知恵、神の力です。」と語りま
す。私はかつてある高僧の付け人をしていた時、この言葉通りのことを体験しました。

仏教では臨終の末期の一念を大事にします。心安らかに何も思い残すことなく死ぬなら後生が良いとされます。半ば冗談に、死ぬときは残念と言っ
てはならない、無念と言えと聞かされました。念が残ってはいけなから
です。これから考えると殺されるの良いい死ではないことになります。師
匠はマハトマ・ガンディーと一緒に暮らしたことがあり、尊敬していま
した。ガンディーが暗殺されたのには衝撃を受けたらしく、「なぜあれほど
の人が殺されたのだろう」と言っていました。あれほどの高い境涯に達し
た人なら安らかな死を送れるように諸天善神が守るはずだと考えるのです。

そのとき「耶蘇も死に方が悪かった」とポツリと言ったのを覚えていま
す。畏れ多い師匠にどういう意味ですかなど質問できる雰囲気ではなかつ
たので推測するしかないのですが、まず第一に殺されたことを指している
のでしょう。師匠の部屋にある聖書にはマタイとマルコの福音書に読んだ
跡がありましたから、イエスが「わが神わが神どうして私をお見捨てにな
ったのですか」と叫び、そして大声をあげてから息を引き取った（これはマ
タイ、マルコ両方に共通です）という死にざまをも指しているのでしょう。
確かに、この死に方は大勢の弟子に見守られて平和に死んだ、釈迦の死に
方とは大きく違います（師匠自身も釈迦と同じ様な死に方をしました）。
しかしここにこそキリスト信仰の精髓があるのに、師匠にはなぜわからな
いのだろうと思ったものです。キリスト信仰にようやく目覚めつつあった
私は一つのものを取ると他のものはわからなくなるのだろうと感じました。
私は仏教がわからないまま終わるのかも知れないが、それでいいのかも知
れないとあきらめ始めたのはこのときだったようです。キリスト教作家の
椎名麟三が洗礼を受けたとき、これでわめきながら格好悪く死んでもいい
のだと思うとうれしいと語ったのを思い出したりしていました。私の好き
な言葉です。

(新井)

ヘンリ・ナーウエンの『旅路の糧』②

九里 彰訳

神の無条件の愛

神の愛とはどういうことでしょうか。神の愛は無条件だと言われます。神は、「～するならば、お前を愛そう」とは、おっしゃいません。神の心には、「～ならば」はないからです。神の私たちへの愛は、私たちの言葉や行い、私たちの外見や頭のよさ、私たちの出世や人気とは、関係ないからです。神の愛は、私たちが生まれる以前から存在し、私たちが死んだ後も存在するのです。神の愛は、世々どこしえにあり、時間内の出来事や状況に縛られていないのです。それは、神が私たちの言動に関心がないということの意味するのでしょうか。そうではありません。神が私たちに関心がないならば、その愛は本物ではないでしょう。無条件で愛するということは、無関心の状態で愛するというではありません。神は私たちとの関わりに入ることを望まれ、逆に私たちの方から神を愛することを求めておられるのです。

恐れずに神との親しい関係に入って行きましょう。私たちが神から愛を受け取るであろうこと、そしてさらに多くの愛を絶えず受け取るであろうことを確信しつつ。

(0205)

神の永遠に存在する愛に立ち返ること

私たちはしばしば無条件の愛と無条件の同意とを混同してしまいます。神は私たちが無条件に愛してはいますが、人間のすべての行為を是認してはいないので。神は、裏切りや暴力や憎しみや猜疑心、その他すべての悪の行為には同意しません。なぜならそれらすべては、人間の心の中に植えつけようとされている神の愛に矛盾するからです。悪は、神の愛の不在です。悪は、神に属してはいないので。

神の無条件の愛とは、私たちが悪いことを言ったり考えたりするときでさえ、私たちが愛し続けているということです。神は、愛情深い親が放蕩息子の帰りを待ちわびるように、私たちが待ち続けているのです。次の真理を保持することは、私たちにとって非常に重要です。すなわち、神が私たちの行いによって悲しみにうち沈むときでさえ、私たちが愛することを決してやめないということです。この真理は、神の永遠に存在する愛に私たちが立ち返ることを助けてくれるでしょう。

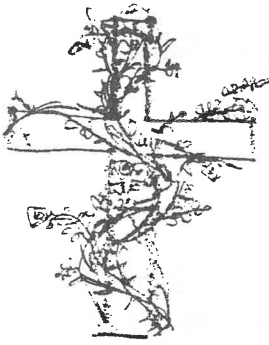
(0206)

「青春」の風景

(7) 一九九八年一月二十一日

蛭田 幼一

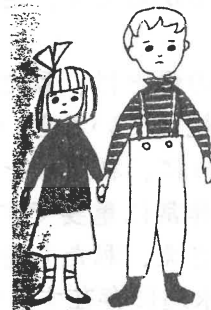
黄昏で、空は蒼ずみ、赤や青や黄色のシグナル。バスに乗れば尾灯の列、遠方をヘッドライトが曲がってゆく。きょう一日は遙かに過ぎた。遙かに過ぎて笑っている。もうすっかり夜となり、思い出は新ただ。青春の日、女友達と映画をみた。駅までの道を歩いた。それがどうしたのだ。なぜそんなことを思い出すのだ。忘れないからだ。豊かな気持ちで覚えているからだ。ああさっぱりした。僕は塹へ帰る。



幸いな罪よ

(8) 一九九八年三月三日

僕は罪とともに生きてきた。これからも罪とともに生きていくだろう。「幸いな罪よ」と、僕は云ってみた。ありがたいことばだった。(潔い心、それに、望むべくは、きれいな目……)夜になって、月が出ていた。ああどうか、主よ、僕がカトリックの教会を離れませんか。あなたの神秘体の、腐った一部となりませんように。



～ 大聖年にあたって (2) ～

カルメル会 嶋崎 浩樹神父

3. 聖霊とは？

聖霊は、とても分かりにくいものでありながら、もっとも身近な存在でもあります。聖書において、聖霊のことはどのように言われているのでしょうか？

「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。この方は、真理の霊である。この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これから、あなたがたの内にいるからである。わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。

わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。しかし、弁護者、すなわち、父が、わたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせて下さる。」(ヨハネ 14.15-21/25-26 参照)

聖霊は、弁護者とか真理の霊とか呼ばれています。弁護者であるということは、わたしたちといつも共にいて、わたしたちをかばい、わたしたちを教え導いて下さるということです。たとえば、誰かの前に出て自分の信仰を言い表すとき、わたしたちの考えではなく、聖霊によってその時に何を話すべきかが教えられます。(ルカ 12.12) 弁護者であるということは、わたしたちに過ちがあったとしてもそれに対する罰を軽減するように御父に助言するということもありえるでしょう。ともかくいつもわたしたちの側に立ち、わたしたちのためになるように取り計らって下さっているのです。

また、真理の霊ということですから、聖霊のおっしゃることには誤りがありません。すべてが真理であり、すべてを明らかにして下さるのです。たとえば、聖書を読むとき、人間の感覚だけで読むならば、その聖書解釈はとても偏った解釈になってしまいます。自分に都合の良い箇所だけをあげて、自分を正当化しようとします。この傾向は、新興宗教の中にも見えることですし、わたしたち信徒が聖書を読むときにも気をつけなければならないことです。聖書を読むということは良いことです。そこには、神様からわたしたちに与えられたメッセージがたくさん示されています。ですから、祈りのうちに聖霊の導きによって聖書を読みすすむならば、きっとそこから神様から

わたしたちに対するメッセージを読みとることができるでしょう。また、このことは聖書を読むときに限るものではありません。わたしたちの日常生活において、何かの判断や結団をしなければならないとき、自分の考えや思いではなく、今神様はどうすればよいとおっしゃっているのかを聞き、神様の導きに従って歩いていくことが大切となるのです。

では、聖霊はどこにいるのでしょうか？どこか遠い所にいるのでしょうか？そうではありません。パウロは、次のように言っています。

「知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿って下さる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。」
(コリント一 6.19)

聖霊は、わたしたち自身の内側にいらっしゃるのです。ですから、大きな声で叫ばなくても聖霊にはわたしたちの声は聞こえ、わたしたちの行いは見えています。わたしたちのうちに住まわれているわけですから、いつもわたしたちと行動を共にしているのです。このように聖霊はそれぞれの人の中に住まわれているわけですから、他の人と接するとき、その人がたとえ気に入らないとしてもその中に住まわれている聖霊には、敬意を示さなければなりません。信者であろうとなかろうとどんな人の中にも聖霊は住まわれています。ある意味で聖霊は、本当の良心といえます。この聖霊から来る良心に従って生きて行くならば、人は互いに尊敬し合い、差別や偏見といったものはなくなるでしょう。これは、ガラテヤの信徒への手紙の中にも出てくるものです。

「霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、柔和、節制です。」(ガラテヤ 5.22)

聖霊から来るものは「愛」です。ですから、そこで結ばれ、わたしたちのうちに開花していくものも「愛」です。すべての人の心の中に「愛」が育って行くならば、この世の中は、真の平和になり、「神の国」の完成となるのです。でもなかなか聖霊の声を聞き分けることはできません。聖霊の声は、とても小さいものです。その声を聞くためには、わたしたちの心を静めて、祈りのうちに聞かなければならないのです。ですから、忙しい毎日の中で、どこかで心を静める時間を持つこと、それが神様との対話となり、祈りへと変わっていくのです。

4. 御父とは？

御父の姿は、旧約聖書と新約聖書においては、それぞれ別の側面が見えてきます。旧約聖書においては、力強く人々を引っ張っていく父性が強調された御父の姿が表れ、新約聖書においては、憐れみ深く包み込んでくれる母性が強調された御父の姿が表れてきます。

1) 旧約における御父の姿

旧約に表れる御父の姿として、ノアの洪水やソドムとゴモラを滅ぼすような厳しい姿が見られます。これは、神様に逆らい、回心して今の生き方を改めようとしないう人々を滅ぼすというものです。また、出エジプト記では、御父はエジプトで奴隷となっていたイスラエルの民を救い出し、約束の地であるカナンまで導きました。他にもイスラエルの民といつも共にいて、戦いがあれば戦い、食べ物や飲み水に困っていれば与えるなど、父としての力強い側面がよく表れてきます。

旧約において父としての神様の側面が見えるのは、イスラエルの民を教育し、本当の神とは誰なのか？神様に従って生きていくということとはどのようなことなのかと言うことを、ある時には叱り、ある時には励ましながら教えていったものです。でもその神様の姿は、ただ厳しいだけではなく、いつもその背後にはわたしたちを愛し、慈しみを持ってわたしたちを見守るという優しさが隠れています。もし、そうでなかったならば、何度も神様に逆らい、ある時には偶像を礼拝したイスラエルの民を生かしておくはずはありません。でも神様は、そのようなイスラエルの民を見捨てることなく、忍耐強く教育し、やがて来る御子の到来の準備をさせていったのです。

2) 新約における御父の姿

新約になると、御父の表だった姿は、影を潜めます。それは、ご自分のひとり子をこの世に遣わして、御子にご自分のご意志を果たそうとなさったからです。

「父の命令は、永遠の命であることを、わたしは知っている。だから、わたしが語ることは、父がわたしに命じられたままに語っているのである。」
(ヨハネ 12.50)

「あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。」フィリポが「主よ、わたしたちに御父をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、イエスは言われた。「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっているのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。」(ヨハネ 14.7 - 11)

上記の聖書の箇所でも分かるように、御子であるイエス様の姿を見れば、御父を見たこととなります。イエス様の語られる言葉を聞けば、御父の語ろうとなさっていることが分かります。ですから、御父が旧約のように前面に出る必要はなくて、御子を通して御父はこの世に働いています。ということは、新約聖書に書かれている内容は、御父の言葉であり、行いであるとも言えるのです。そして、旧約と大きく違うのは、父としての厳しさよりも母としての優しさが表れてくるということで

す。これは、人類の罪の贖いによって神様と人類との間に完全な和解をもたらすことが御子の派遣の大きな目的だったからでしょう。人間の側から罪を贖うことはできません。罪を贖うのは神様だけが行えるものです。それも神様御自ら十字架に掛かって死に、復活するというを通してでない、贖いを成し遂げることはできなかったのです。この神様のわたしたちに対する最大限かつ究極的な愛の表現によって、わたしたちは救われたのです。わたしたちを神様が救って下さったのですから、神様のご意志はすべての人が、ご自分の御もとに来ることを望んでいるのです。それは、父の厳しさよりも母の優しさによって、来る者はすべて受け入れようとすることです。それも無条件に神様は、わたしたちを受け入れて下さいます。

3) 現代における御父の姿

では、今を生きているわたしたちにとって御父とはどのような存在なのでしょう。今この世には御子はいません。御子は、すでに御父のもとに昇天なさっています。今この世にいて働いているのは、聖霊です。御父は、この世に聖霊を送り、全人類が回心し、この世のことに囚われるのではなく、ご自分の御意志に従って生きるように導いておられます。

今、わたしたちに求められているのは、日々の生活の中に御父のみ業とご意志を見極めながら生きていくということです。それによってこの世は少しずつ、「神の国」となっていく。でも、御父が直接語りかけてくることはありません。わたしたちの中に住まわれている聖霊によって、わたしたちがどのように生きていけばよいのかと言うことが教えられます。ですから、祈りによって心を静め、心の中に住まわれている聖霊の声に耳を傾けていくようにしましょう。その聖霊の声は、御父の声です。今の世の中、神様の声はなかなか聞こえにくくなっています。だからこそ、より神様の声を聞くようにしましょう。また、周りを見回しましょう。わたしたちの周りには、神様によって造られたものがたくさんあります。それを自分勝手な考えによって、壊してはないでしょうか？環境問題を考えるときにも、神様が造られたこの自然をどのように守っていけばよいのかという視点を持って考えていかなければならないでしょう。

御父は、わたしたちが回心することを待っておられます。そして、いつ御子を再びこの世に派遣して、「神の国」を完成しようかと考えておられます。わたしたちは、御父に対して、少しでも早くキリスト様が再臨し、「神の国」が完成するように祈っていくことにしましょう。

<聖書の引用は、新共同訳聖書1997年版を使用しました。>

相手と一つになるなら

(コリントー9・22)

弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。
すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。

使徒パウロは、素晴らしい宣教活動を果たした人物ですが、独自の宣教方法を持っていました。それは、「すべての人に対して、すべてのものになる」という言葉で表現できるものです。実際パウロは、すべての人を理解し、それぞれの立場になって考えるよう努めていました。そこで、ユダヤ人と共にいる時には、自分もユダヤ人のようになりました。

またユダヤ人ではない人たち（神様から与えられた律法を持たない人たち）に対しては、彼自身も、律法を持たない者のようになって接しました。

ユダヤの慣習も、それがさまざまな障害を取り除き、人々に和解をもたらすのに役立つのであれば、パウロはいつも受け入れていました。また、ギリシャ人やローマ人の間で働く時には、その土地の生活様式や文化に従うようにしていました。

その彼が次のように言っています。

弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。
すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。

では、ここで言う「弱い人」とは、どのような人でしょうか。

それは、精神的に弱く、知識も浅いため、簡単につまずいてしまうキリスト者たちのことでした。

たとえば、偶像に供えられた肉について、それを食べてもよいか、いけないか、という問題がありました。パウロにとっては、唯一の神以外に、一切偶像の神など存在しないのは明らかでした。偶像の神が存在しないのですから、それに供えられた肉というのも、当然存在しないわけです。しかし、「弱い人」たちは、以前からの習慣的な考え方にとらわれ、あまり知識もないために、そうは考えなかったり、

どうすればよいか分からず動揺することがありました。パウロは、このようなキリスト者たちの狭い考え方を理解しようと努め、彼らが心を乱すことのないようにと、その肉は食べない方がよいと語っています。

**弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。
すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。**

なぜパウロは、このような姿勢で人々に接するようになったのでしょうか。

彼は、キリスト者としての自由を人々に告げ知らせ、自分自身それを生きていました。しかし一方で、兄弟、隣人一人ひとりの「奴隷」となる必要がある、むしろ、自分はそれを命じられていると感じていました。彼が模範としていたのは、十字架のキリストだったからです。

神様は人となられ、人間の近くに来てくださいました。しかし、私たち罪人の一人ひとり一つになってくださったのは、まさに十字架の上でした。私たちの弱さや苦しみ、悩み、無知、見捨てられた状態、私たちが抱える疑問や重荷を、ご自分のものとされたのです。

パウロも、このキリストのように生きたいと望み、次のようにはっきりと語っています。

**弱い人に対しては、弱い人のようになりました。弱い人を得るためです。
すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。**

では私たちも、今月の新しい「いのちの言葉」を生きるには、どうすればいいでしょうか？

答えは分かっています。私たちの人生、その日々は、神様のもとに至るためにあります。それも自分一人ではなく、兄弟姉妹と共にです。ですから、神様がパウロにお委ねになった使命は、私たちキリスト者にも任されています。私たちもパウロのように、だれかを「得る」こと、「何とかして何人かでも救う」ことに招かれているのです。

そのための道は、何でしょうか。隣人と「一つになる」ことです。相手が、子供、大人、無知な人、教養のある人、裕福な人、貧しい人、男性、女性、同じ国の人、

外国人であろうと同じです。道で出会う人、電話の相手、仕事のお客さんの場合もあるでしょう。

すべての人を愛する必要があります。でも特に、最も弱い人たちを愛するようにしましょう。「弱い人を得るため」、「弱い人に対しては、弱い人になる」ことです。ですから、信仰の弱い人、宗教には関心を持たない人、自分は無心論者だと言う人、宗教を悪く言う人にも、向かっていきましょう。

彼らと一つになるなら、私たちがパウロの素晴らしい使徒職を、経験できることになります。私たちが、これらの人々に神様を証しすることで、彼らも神様に心をひかれるようになるでしょう。

そこで、今この言葉を読んでおられるあなたに、申し上げたいのです。あなたのご主人（または奥さん）は、教会が大嫌いで、テレビの前で何時間も過ごすタイプですか？ それなら、悪いものでなければ、できる範囲で一緒に見てはどうでしょう。相手の好きな番組に興味を持ってみましょう。

また、あなたの子供はサッカーに夢中で、他のことはどうでもよく、祈ることなどすっかり忘れているのですか？ あなたも、その子以上にスポーツに関心を抱いてみてはどうでしょう。

また、あなたの友人に、旅や読書、教養を身につけることは好きでも、信仰やモラルの話は一切聞きたくない、という人がいますか？ その人の好みや望みを理解するよう努めましょう。

すべての人と、できる限りすべてにおいて、一つになることです。ただし、罪は除かれます。相手が罪を犯すようなら、それはしてはいけません。

こうしてあなたが隣人と一つになることは、時間の無駄ではなく、かえってすべてを得ることになるでしょう。

いつの日か（そう遠いことではありません）、相手の方も、あなたが大切にしていることを知りたいと望むようになるでしょう。あなたのキリスト者としての生き方の源であった神様に、彼らも出会うことができるでしょう。感謝のうちに彼らも、神様をあげ、愛するようになるでしょう。

キアラ・ルービック

フォコラーレ本部

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-11-4

TEL. 03-5370-6424

FAX. 03-5370-3055

諸所の企画についてのご紹介

I ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会)

場 所：〒177-0044 東京都練馬区上石神井4-32-35 Tel(03)3594-2247

*若い信徒のための研究会 (20～40代の信徒対象)

祈りについて学ぶ

日 時：2000年2月19日(土) ・ 3月18日(土)

講 師：伊従 信子(ノートルダム・ド・ヴィ 会員)

プログラム：午後2時30分～午後5時半。講話、祈り、等

申し込み：電話(18:00-21:30) ・ Fax(03)3594-2254。(いつでも)又はハガキで

*従来の祈りの集いは5/20(土) テーマ「日常生活の中で祈る」

II スズラン・ハウス

女性のアルコール依存症、やせ症、摂食障害の経験者とその家族のためのウェルビーイングを研究開発実践する施設。

詳細を知りたい方は、下記へ：

〒192-0041八王子市中野上町4-27-4 TEL 0426-28-3222 井口 貴志

III 風 の 家

指 導：井上 洋治 師(東京教区司祭)

〒169-0042 東京都新宿区西早稲田 3-17-23-903 TEL 03-3204-4453

山根 道公 機関誌『風』編集者

*新住所 〒700-0808 岡山市大和町1-11-17

Tel・FAX 086-227-5665 詳細はお電話でお尋ね下さい。

IV 生命山カトリック別院

〒865-0133熊本県玉名郡菊水町蜻浦1391-7 TEL.0968-85-3100

黙想会 指導：フランコ神父 ・ 園田善昭神父

(1)8月7日(月)－8月15日(火) (2)8月17日(木)－8月25日(金)

開始 17:00時 終了 朝食後

研修会 座禅と聖体礼拝 3月31日(金)－4月2日(日)

茶道とミサ 4月7日(金)－4月9日(日)

諸宗教対話活動 仏教者との交流

2月11日(金)・4月29日(土)・6月25日(日)

21世紀に向けて第4回宗教者平和の祈りの集会

*日時：10月8日 午後 *場所 生命山カトリック別院

祈りの集い 年間テーマ「私を見た者は父を見たのである」

(10:00～15:00)

1/13.2/10.3/9.4/13.5/11.6/8.7/13.9/14.10/12.11/9.12/14(木)

*このほか、個人、グループでも静修、黙想会などができます。

お申し込みは生命山別院へ

V 瞑想の家 東 光 庵

指 導：ヨハネ・ウマンス師(神言会) *詳細問い合わせは電話で

場 所：〒166-0004 東京都杉並区阿佐ヶ谷1-38-13 TEL 03-3336-0735

VI リーゼンフーバー神父による研究会 (1999~2000年)

- ①キリスト教入門講座 日時：金曜日 18:45 ~ 20:30
 場所：聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
 対象：キリスト教を学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方どなたでも。予備知識は必要ありません。
2000. 2/18 信徒、司祭、修道者—誰でも召されている
 2/25 仕事という人間の課題—社会に寄与して働く
 3/3 人間の受難—悪とは何のためか
 3/10 死—その実現と克服 *黙想会 3/11-12
 3/17 人生の完成—神の内に生きる
 3/27 世界の聖化—多様な形で働きかける恵み
 3/31 聖母マリア—信じる者の原形

- ②神学読書会 日時：毎月第2・第4(第5)水曜日 18:30~20:30
 場所：SJハウス第5会議室 要申込み、定期的参加
 対象：キリスト教の基本的知識を持っている20代~30代の方。

- ③聖書研究会* 日時：毎月第1・第3水曜日 18:30 ~ 20:00
 場所：S.J.ハウス第5会議室
 内容：日曜日の聖書箇所を読んで一緒に考える。どなたでも。
 *日時：木曜日 12:40 ~ 13:25
 場所：上智大学7号館 316号研究室
 内容：新約聖書を1章ずつ読んで話し合います。

- ④坐禅会 日時：月曜日 17:20~20:10 木曜日 18:00~20:30
 場所：クルトゥムハイム1階左の部屋 3回坐り、間に講話があり。
 どなたでも。遅刻、不定期参加も可。

- *接心 2000.2/26(土)8:30~27(日)16:00 上石神井黙想の家 5,400円
 関東 5/1(月)20:30~7(日)16:00
 6/17(土)8:00~18(日)16:00 } 秋川神冥窟
 8/12(土)20:30~19(土)16:00 } 一泊2400円程度
 10/31(火)夜 ~11/5(日)16:00
 20001.2/17(土)8:30~18(日)16:00 上石神井 5,400
 関西 5/27(土)13:00~28(日)16:00 宝塚市①
 8/1(火)17:30~7(月)13:00 宝塚市②

連絡先：①シスター朝山 TEL.0727-59-3742 ②岸本 正 TEL.078-583-3067

- ⑤ミサ：水曜日 17:10~18:00 場所：上智大学内クルトゥムハイム1階右小聖堂

- ⑥黙想：水曜日 18:00~18:30 場所：(同上)

(ミサ、黙想、共に(8月を除く))

- ⑦祈りの集い：下記土曜日 13:30~16:00 場所：S.J.ハウス第5会議室
 講話、黙想、ミサがあります。

2000年1月8日、2月19日、3月4日

- 8 アガペ会：説明会と集い・右記の 13時30~ .1/22. (20代~40代の信者)

以上、問い合わせ・連絡先：クラウド・リーゼンフーバー神父
 〒102-8571東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J. ハウス
 直通電話 03-3238-5124、5111(伝言)、FAX,03-3238-5056

Ⅶ 三位一体の聖体宣教女会 「祈りの家」

場 所：〒189-0003東村山市久米川町1-17-5 TEL.042-393-3181 FAX 042-393-2407

黙想会「聖書で祈る」

申し込み先…… 佐々木明子

指導：雨宮 慧師（東京教区司祭）

対象：一般信徒

2000, 2月26日（土）5:30P.M.～2月27日（日）4:00P.M.

6月24日（土） “ 6月25日 “

10月28日（土） “ 10月29日 “

2001, 2月24日（土） “ 2月25日 “

召命を考える祈りの集い

指導：星野正道師（カルメル会）

対象：女子青年信徒

2000, 2月11日（金）10:00A.M.～5:00P.M.

4月29日（土） “

7月20日（木） “

10月8日（日）5:00P.M.～9（月）4:00P.M. } 日帰りが一泊に

2001, 2月11日（日）5:00P.M.～12（月）4:00P.M. } 変更になりました

黙想会：2000, 5月30日（火）10:00A.M.～4:00P.M. *対象：信徒のための一日黙想

指導：星野正道師（カルメル会）

大聖年・聖書に親しむ集い

講師：シスターマグダレナ

*対象：信徒

テーマ：2000年に向けて 御父、御子、聖霊との交わり

一秘跡を通して一 毎月最終木曜日 2:00P.M.～3:30P.M. *7.8.12月除いて

キリスト教講座（カトリックの教えを学びたい方）毎木曜日 10:00A.M.～11:30A.M.

十字架の使徒職の集い

*対象：信徒

期 日：第一グループ 毎月第2金曜日（2:00P.M.～3:30P.M.）

第二グループ 毎月第1木曜日（2:00P.M.～3:30P.M.）

両グループ*司祭のために聖体礼拝を捧げます（1:30PM～2:00PM）

Ⅷ マリアの御心会（明泉会）

場 所：〒160-0012 東京都新宿区南元町6-2

TLE.03-3351-0297

I. 黙想会 担当：シスター今村和子

①聖書深読黙想会 - 主日の福音を中心に -

隔月・日曜日 10:00A.M.～5:00P.M..

②黙想と祈りの集い

テゼの歌をうたいながら

③霊操による祈りの集い

指導：長町 裕司師（イエズス会）

毎月第3土曜日 6:00～8:00P.M

II. ①聖書会 …詩編を読む…

毎月第1月曜日 10:00～12:00.A.M

②聖通読講座

木曜日 6:30～8:30P.M

IX 聖心会黙想の家

場 所：〒410-1126静岡県裾野市桃園 198 Tel&Fax. 0559-92-2120

祈りの集い（問合せ・申込は聖心黙想の家まで電話/FAXで！）

- 午後のひととき、静かに過ごしてみませんか？

（当日黙想の家の玄関に表示します。）

黙想会のお問い合わせ・お申し込みは：165-0033東京都中野区若宮3-9-4

若宮共同体 TEL. 03-3337-3291

X. カトリック内観研究会

代 表：藤原直達（大阪教区司祭）

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 5-10-5 カトリック浅草教会内
TEL&FAX 03-3862-8876

*予約相談は、まずはファックス・手紙でご連絡ください。*予約が決まれば、さらに詳しく場所、申し込み、諸注意、など送ります。

予定表	2000, 1/9 ~ 1/15	茅ヶ崎	4/9 ~ 4/15	茅ヶ崎
	1/24 ~ 1/29	関西・精華町	5/1 ~ 5/6	関西・精華町
	1/31 ~ 2/5	戸塚・聖母の園	5/15 ~ 5/20	戸塚・聖母園
	2/13 ~ 2/19	茅ヶ崎	6/5 ~ 6/10	関西会場 A
	2/27 ~ 3/4	名古屋か・茅ヶ崎	6/19 ~ 6/24	茅ヶ崎
	3/12 ~ 3/18	茅ヶ崎	7/10 ~ 7/15	戸塚・聖母園
	3/19 ~ 3/24	沖縄	7/24 ~ 7/29	関西会場 A
	3/27 ~ 4/1	関西・精華町	8/7 ~ 8/12	戸塚・聖母園
			8/22 ~ 8/26	関西会場 A

公開講座 イエスと日本人 -キリスト教の文化内開花の問題-

場 所：新宿住友ビル48階 朝日カルチャーセンター（受付は4階）

朝日新聞の～化活動 朝日カルチャーセンター

〒163-0204新宿区西新宿 2-6-1 TEL:03-3344-1941 私書籍22号

TEL:03-3344-1945

日 時：3 / 6

受講料：会員

I. コングレガシオン・ド・ノートルダム

係・山本 三千子

TEL(昼間0424-82-8056)

(夜間0424-82-2012)

テーマ：

日 時：

対 象：

指 導：

参加費：

申込み：

場 所：〒182-0034 東京都調布市下石原3-55 TEL(0424-82-2012)

コングレガシオン・ド・ノートルダム FAX(0424-82-2163)

京王線調布駅南口より徒歩15分

何事も神の聖旨と知りながら悟り切れざる我
をさげすむ

マリア安達留子遺稿集

秋の歌より



聖書に親しむ

— 日本人の心で読む —

聖書には様々な読み方があり、理解のしかたも人それぞれです。その聖書の心に触れ、学び、理解を深めていくことを目的としている深読法とは何か。通信講座でご指導いただいている、カルメル会司祭の奥村一郎神父が深読法についてお話しします。聖書に興味をお持ちの方や聖書を今までに読んだことがない方でもご参加いただけます。
(定員80名)

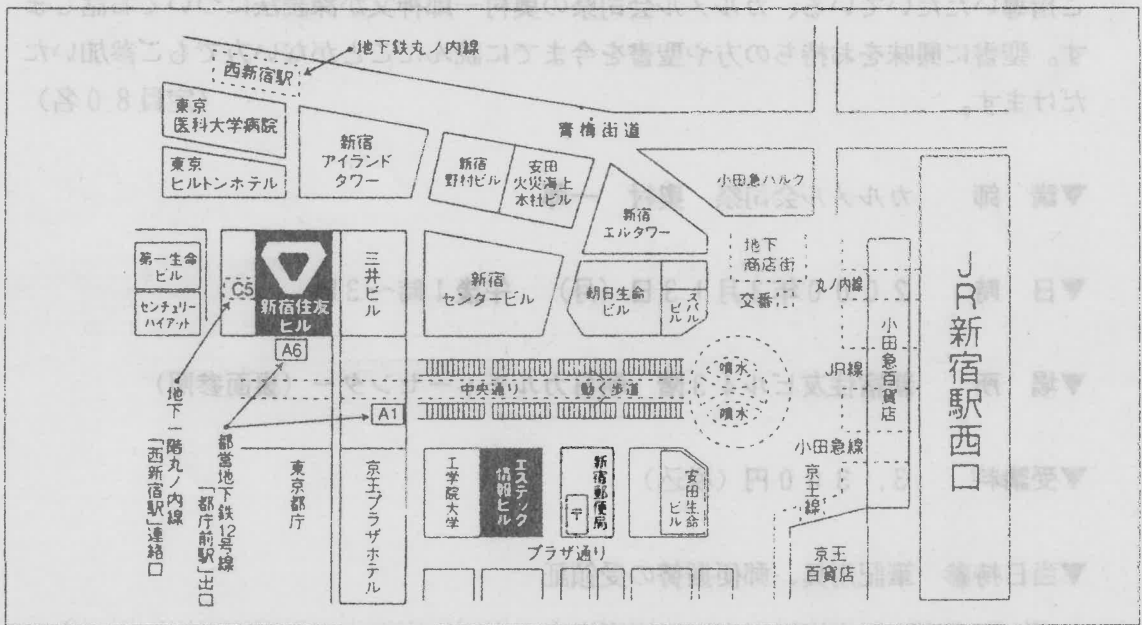
- ▼講師 カルメル会司祭 奥村 一郎
- ▼日時 2000年3月13日(月) 午後1時～3時
- ▼場所 新宿住友ビル43階 朝日カルチャーセンター(裏面参照)
- ▼受講料 3,300円(税込)
- ▼当日持参 筆記用具、郵便振替の受領証

【申込方法】 まずお電話でご予約ください。(☎03-3344-2527)。予約番号をお伝えします。郵便局備え付けの振替用紙をご利用のうえ、次の要領で受講料をご送金ください。

- ◆口座番号は00150-6-87041
- ◆加入者名は朝日カルチャーセンター
- ◆通信欄に講座名(聖書に親しむスクーリング)と予約番号
- ◆払込欄にご住所、氏名とフリガナ、電話番号を記入。郵便局の受領証を受講票に代えますので、当日ご持参ください。尚、ご送金後から当日まで特別の変更がない限り、朝日カルチャーセンターから連絡を差し上げません。

講師略歴 おくむら・いちろう カトリック司祭(カルメル会)。東京大学在学中、禅仏教より改宗。卒業後にカルメル会入会のため渡仏。帰国後、主に諸宗教との対話とその交流に関与する。著書に『祈り』『友の祈り』『断想』(女子パウロ会)、『愛ゆえに生く』(中央出版)、『聖書深読法の生いたち』(オリエンズ宗教研究所)。訳書に『カルメル山登峰』(ドン・ボスコ社)など。

▼申込締め切り 電話予約は先着順でお受けします。定員になり次第、締め切らせていただきます。



お問い合わせは朝日カルチャーセンター・通信講座部へ

☎ 03-3344-2527

上野毛、宇治、大分

カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

聖テレジア修道院 (黙想) は、カルメルの霊性を体験し深めたい方のためのものです。黙想会、研修会、練成会などに御利用下さい。個人でも団体でも御利用頂けますが、必ず事前に御連絡の上、お申し込み下さい。なお、詳しい御問い合わせは、下記へお願いいたします。

※☎158-0093

東京都世田谷区上野毛2-14-25

☎ : 03-5706-7355

FAX : 03-3704-1764

東急大井町線 : 「上野毛駅」下車徒歩7分

※☎611-0002

京都府宇治市木幡御蔵山39-12

☎ : 0774-32-7016

FAX : 0774-32-7457

京都駅よりJR奈良線 : 「六地藏駅」下車徒歩15分

京阪バス : 六地藏の町並バス停より御蔵山行きに乗り

「西住宅バス停」下車徒歩5分

※☎870-1152

大分市上宗方1800-3

☎・FAX共 : 0975-41-4012

大分駅～バスで18分、大分川を渡って明礮橋を右折

男子跣足カルメル修道会

お 原 頁 い

投稿くださるときには、だいたい、次のようにしていただけますと幸いです。

1. 締 切 り 毎月10日
2. ①各グループの 目的 或いは 主旨
②月間 或いは 年間予定：研修、黙想など具体的計画
③随想、こぼれ話など。「断想」「陽あたり」とか小題をつけて
④その他 自由ニュースをお送りください。
3. ワープロ。 なお、手書きの場合は早目にお送りください。
4. 原稿が長い場合、編集段階で選択したり、数回に分けて掲載させていただく場合があります。お赦してください。
5. 寄稿連絡は星野正道神父宛てにおねがいします。

・ニュース（霊性センターニュース）をご希望の方は 中尾豊子宛 に郵送御希望の月数分の220円切手又は現金を送ってください。（これには封筒代等が含まれています。）

中尾 豊子 〒224-0041 神奈川県横浜市都筑区仲町台 3-15-5
☎045-941-3566

あ と が き

「霊性センターニュース」も奥村神父様の時代以来、常に変わらぬご理解とご支援をいただき心から感謝申し上げます。今後もこの小さな種が皆様の暖かなご協力のもとに、すこやかに成長していくようお祈りください。

なお、“一口一円”の呼びかけで始まった献金も、神様の御手の中で大きな助け手、働き手となってきています。ご協力、本当にありがとうございます。

喜びと悲しみ、日々の小さなことがらを通してイエス様が働きかけ、共に生きてくださいますように、お祈りいたします。

カルメル会霊性センター

星 野 正 道